

無災害での完了をたたえ表彰状が手渡された

宮坂建設工業を表彰

第2北見ヶ丘トンネル
建設事業無災害表彰

北見労基署

【北見】宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)が施工した39号第2北見ヶ丘トンネル現場が建設事業無災害表彰を受賞し、9月30日に北見労基署で伝達式が行

われた。現場代理人を務めた札幌支店の児玉彰夫(左)と、土木部長の藤原亮(右)が、表彰状を受け取った。建設事業無災害表彰は、労働者災害補償保険

料160万円以上の大規模工事現場が対象。この現場は、高規格道路の北見バイパスに延長415m、内空断面73mのトンネルを松谷建設との共同体で新設した。約13億円で請け負い、延べ9067人が2009年10月の着工から11年2月末の完了まで10万8802時間にわたり無災害で施工した。

児玉参与は、村井和代安全環境対策室長と共に同労基署を訪れて表彰状を授受。「地盤が意外と固く、掘削行程が延びた

が、無事に無災害で完了できた。東側坑口で採用したAGF工法により完全に施工を進められたと思う」と話していた。

田中組と宮坂建設工業に 岩見沢労基署が無災害表彰伝達



現場代理人を務めた宮坂建設工業の岡本雅之氏(左)と田中組の奈良木真也氏

【岩見沢】岩見沢労基署は2日、田中組が施工した社会福祉法人萌佑会の特別養護老人ホーム仮称ぬくもり新築と、宮坂建設工業の道央用水三期農業水利事業道央注水工川端トンネル建設の2現場

に建設事業無災害表彰状を伝達した。現場代理人を務めた田中組の奈良木真也氏と宮坂建設工業の岡本雅之氏に、息才正署長が表彰状を手渡した。

田中組の現場は、2010年6月2日から延べ284日間の工期で行われた。作業員で札幌や旭川から通う割合が多かったため、各自に通勤経路の交通危険マップを作成してもらったり通勤災害対策に気を使った。

一方、宮坂建設工業が札幌開建から受注した川端トンネルは、延長806mの水路トンネル建設工事。08年9月から11年3月15日までの長期間にわたる工事で、トンネル内で接触事故などが起らないように「コミュニケーション」を密にとり、安全作業に努めた。

息才署長は「それぞれの現場で十分に対策を取られていたのが、今回の表彰につながった。この表彰を後の現場にも生かしてほしい」と呼び掛けた。

北海道通信

無災害表彰を伝達―岩見沢労基署 田中組と宮坂建設工業に 一丸となり災害防止策実施



右から奈良木氏、岡本氏

【岩見沢】岩見沢労基署は2日、建設事業無災害表彰伝達式を同署で挙行了。田中組札幌阿部芳昭社長(特別養護老人ホーム仮称ぬくもり新築)と宮坂建設工業(帯広)坂野社長の「道央用水3期農業水利事業道央注水工川端トンネル建設」の2現場が表彰され、息才正署長から表彰状を手渡された。同署管内では初の表彰となっている。

今回、表彰された田中組の「特別養護老人ホーム仮称ぬくもり新築」は社会福祉法人萌佑会が発注。工事金額は八億九千三百万円、一丸となって無事故で工事を完了することができ、大変われしく思っている。今後無事故・無災害を続けたい」と喜びを表した。

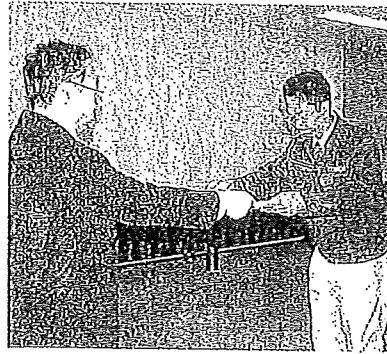
息才署長は「いずれも長期にわたる工事であったとしても期待した。

が、無事故・無災害で終えたい」と述べ、今後の取組についても期待した。

札幌中央署が無災害表彰伝達式
宮坂建設の取組たたえる

オカバルシ川溪流保全

札幌中央労働基準局は八月三十一日、札幌第一合同庁舎で建設業無災害表彰伝達式を執り行った。今回表彰を受けたのは、宮坂建設工業



この日の伝達式には、同社札幌支店の村井和代安全環境対策室長と船橋晃現場代理人が出席。石川署長が

（傍）が施工する「豊平川砂防オカバルシ川溪流保全」の現場。石川俊英署長が事業場の担当者へ表彰状を手渡し、その功績をたたえた写真。

現場では、河川水位の上昇を携帯電話にメールで通

知らせる水位自動検知システムを導入。監視カメラも設置し、リアルタイムで水量を調整することで増水時の災害を未然に防いでいる。また、重機の前方から後方まで半円を描くように従業員を配置し、操縦者がどの範囲まで見えるかを確認。重機災害の防止を図った。

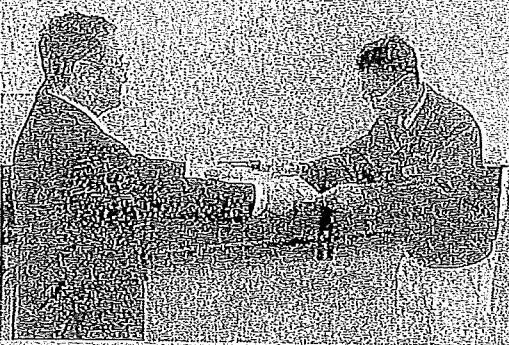
「昨年、無事故・無災害に引き続き、死亡災害が大幅に減少している。引き続き無災害と、一層の安全対策への意気込みを語った。」

北海道建設新聞

2011年(平成23年)9月1日(木曜日)

宮坂建設工業に伝達

札幌中央労働基準局が無災害表彰



無災害達成をたたえ表彰状を伝達した

また、急な増水に対応するため水位自動検知システムを導入したほか、粉じん・騒音対策を施して近隣の管業作業に配慮。ヒヤリマップの作製やエコードライブ実践による交通事故防止も徹底した。伝達式では、石川俊英署長が船橋晃現場代理人に賞状を手渡し、「次の現場でも無災害にチャレンジしてほしい」とエールを送った。

現場は狭小なヤードで複数工種の作業が並行することから、作業区分を明示することも、作業手順・作業計画を綿密に打ち合わせて重機災害の防止に努めた。

札幌中央労働基準局は8月31日、宮坂建設工業が施工するオカバルシ川溪流保全（札幌開港発注）の現場に、建設業無災害表彰を伝達した。

工事には、河床上昇による洪水や土石流を防止するため、河床幅の拡幅

「現場では、急な増水に対応するため水位自動検知システムを導入したほか、粉じん・騒音対策を施して近隣の管業作業に配慮。ヒヤリマップの作製やエコードライブ実践による交通事故防止も徹底した。伝達式では、石川俊英署長が船橋晃現場代理人に賞状を手渡し、「次の現場でも無災害にチャレンジしてほしい」とエールを送った。」